

文化の交差点

bunka to bunka no kousaten

2022年^{はるひ}春日号



contents

サークル見聞録

- マンドリン楽部「第206回定期演奏会」 p 1
劇団木霊□□公演「はらいそ少女解脱教」 p 2
舞台美術研究会秋季研究会公演
「能楽堂の襖の中には涙の海が広がっている」 p 3

文化の案内板

- 繊維研究会 p 4
演劇研究会 p 5

「文化の交差点」2022年^{はるひ}春日号
発行日:1月18日
発行者:「文化の交差点」編集委員会
代表・神原（教育3年）
連絡先:090-2331-4456
waseda-bunren@hotmail.co.jp



マンドリン楽部 第206回定期演奏会を聴いて

(12月17日 練馬文化センター 大ホール)

この1年間、幾度も困難を乗り越えてきたマンドリン楽部さんの力のこもった演奏に、とても胸が熱くなりました。

第Ⅰ部はイギリスにまつわる曲を中心に構成されたプログラム。とくに印象的だったのは「イギリス民謡組曲」です。軽快で勢いのあるメロディーから始まり、フルート・クラリネットや低音楽器が、さらにその後もギターやマンドラ、マンドリンなどの様々な楽器が主旋律となり、美しい音色を響かせていました。民謡の旋律が存分に生かされたこの曲を通じて、イギリス人の豊かな感情世界に浸ることができました。

第Ⅱ部は全ての演奏が素晴らしかったです。ブラームスの「大学祝典序曲」はドイツの学生歌を取り入れた躍動感溢れる曲で、とくに体を打ち震わせて指揮を振る指揮者の方の姿がとても印象的でした。

ワーグナーの「楽劇《トリスタンとイゾルデ》より〈イゾルデの愛の死〉」は、「無限旋律」という技法を駆使した、従来の歌劇とは異なる「楽劇」。「愛」をテーマにした難度の高い曲もとても感情豊かに弾きこなし、堂々たる演奏だったと思います。そして最後は、ワーグナーの「歌劇《リエンツィ》より序曲」。曲に背負わされた歴史をのりこえ、ドラマチックな展開、華々しい終焉に、会場は大いに盛り上がりました。クライマックスに近づくに連れてみなさんの熱気が音を通してすぐく伝わってきて、演奏会を締めくくるにふさわしい、感動的な最後でした。ブラボー！！

(火鍋)





劇団木霊□□公演 「はらいそ少女解脱教」をみて

12月23日～25日 大隈講堂裏劇団木霊アトリエ

とある信仰の厚い集落で育った子どもたちが、「はらいそ」と呼ばれる安寧の地を探して旅をする。彼らは新たな生活の中で意気軒昂と暮らすが、しかしふとした瞬間、悲しさや切なさ、もどかしさや不安といった感情が噴き出していく。かつて集落の数少ない受け継ぎ手として大人たちに期待をかけられてきた生活のもとで、彼らは様々な心の傷を負っていたのだった——



子どもたちと、それを見守る女性や旅人との交流を通じて描かれる移動集落の日常風景が、とても良かったです。とくに始めの、「いっぱい言葉」のフレーズのもと登場人物が生き生きと語る場面が印象的で、その後の悲劇的な展開にも深みをもたらしていたと思います。

最後、めまいや地震、雷が子どもたちを襲い、慈愛心が強く彼らを見守っていた女性もあとを追う結末はとても切なかったです。けれども子どもたちの感情表現には私たち（観客）の心にも響いてくるようなリアルさがあって、不思議と話の展開に惹きこまれました。少女がその場で壁に絵を描き始め、完成した絵が最後に残る演出も見事でした。

今回、ようやく劇場に足を運ぶことができ良かったです。受付、スタッフの方の挨拶、会場での音楽など、全てが私にとっての演劇であるなとあらためて思います。舞台美術は壁のデザインが斬新でした。子どもたちの衣装も素晴らしく、集落で育ち「はらいそ」を目指す者としての存在感がすごく出ていました。今後も楽しみにしています！

(伊予柑)

2021年度 舞台美術研究会 秋季研究会公演

能楽堂の甕の中には 涙の海が広がっている

(12月24日～12月26日 学生会館B203)

舞台には、震災と津波で大きな被害を受けた町と砂浜が広がっている。そこで男女4人が交わす何気ない・でも微妙にすれ違った会話。何か背後に大きな物語の存在を感じさせつつ、淡々とストーリーは進む。その“何か”がなかなかつかめなくて、途中はもどかしく思ったが、その分、最後の“能楽堂の甕の中に広がっている涙の海”がひとときわ心に残った。

舞台上の彼・彼女たちは、既に南海トラフ大地震で命を落とした死者たちであることが作中で明らかになる。そこでこの芝居は、いまを生きる私たちと震災や戦争で命を奪われた死者たちとの交感を描こうとしているのではないかと気づく(劇中の視点人物の名前が「あなた」とされているのは意味深長だ)。足元に広がっている“涙の海”を渡っていくことで、私たちは過去ともつながることができるのだと。

この芝居に圧倒的なリアリティを与えているのは、圧巻の舞台美術と照明である。暗闇のなかで光る自動販売機。お金を投入して飲み物がガタンと出てくる音を聞いて、劇中の現実には引き込まれる。照明からは舞台上に漂う静謐な雰囲気を感じた。

コロナ禍の様々な困難を越えて、ついに実現された有観客公演。関係者のみなさん、たいへんお疲れさまでした。

(鏡餅)





繊維研究会2021年度ファッションショー
『見つめては瞬きをする』

日時 | 2月6日 (日)

① 13:00 ② 15:30 ③ 18:00

場所 | BankART KAIKO

(横浜市中区北仲道 5-57-2
KITANAKA BRICK&WHITE 1F)

みなとみらい線

「馬車道」駅より徒歩4分

観覧料 | 500円

音楽 | Taquwami

写真 | 村田啓

アートワーク | 石塚俊

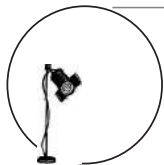
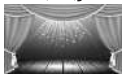
宣伝美術 | 新澤真柊

ご予約はこちらから

<https://forms.gle/72Eo2cbeuRkbVwXN8>



演劇



早大劇研企画公演
2年ぶりの場内観劇

幸福の標本

わたしたちは、「しあわせ」を永久保存する
ことにした

わたしたちは、ながいながい休暇の中にいます。
未曾有のウイルスを横目に、忙しすぎた人間
たちが皆、ゆったりと息をついています。

本当の幸せとはなんなのか。

考え直す時間がやってきたかも知れません。

【日時】

2月9日(水) 17:30

2月10日(木) 17:30

2月11日(金) 13:00/17:30

2月12日(土) 13:00/17:30

2月13日(日) 13:00/17:30

【場所】 早稲田大学大隈講堂裏劇研アトリエ

【ご予約】

<https://ticket.corich.jp/apply/116408/>



【出演】

田中豪、吉本琉奈、中孝太、
田中優笑、はる香、大熊望友、
稲葉捺月、能見千秋、栴屋大河、
川合凜

【脚本・演出】 それでもかわらだ